

## ロールモデル講演会 開催報告書

「超高齢化社会における～基礎研究・実臨床・女性研究者～」

- 【講師】 1 岩井美奈氏（大垣市民病院・薬剤師）  
2 平井みどり氏（神戸大学・名誉教授）

【日時】平成 30 年 1 月 20 日（土）

【場所】岐阜薬科大学本部 第一講義室

【参加者数】39 名（うち女性研究者 8 名）

このロールモデル講演会は、第 9 回育薬・創薬研究センター教育フォーラムに組み込んで開催した。まずこのフォーラムとして学生発表が 4 件あり、キャリアパス支援のためのロールモデル講演会として大学の女性研究者および臨床研究者として活躍する病院薬剤師による発表が 2 件あった。最後に、元神戸大学医学部附属病院薬剤部長で同大学名誉教授である平井みどり先生に、ロールモデル特別講演としてご講演いただいた。

1. 本学の伊野陽子講師および大垣市民病院薬剤師の岩井美奈氏に、ロールモデルとして講演をしていただいた。

両名とも、実際に患者と対する臨床薬剤師でありながら研究を続けている。自身の研究成果の報告のあと、母であり研究者でもある自身をロールモデルとして、ワークライフバランスについて紹介していただいた。伊野講師は、女性だけの問題ではなく社会全体の問題としてとらえて、辞めずに継続していける社会の構築が必要だと話された。また岩井氏は、自身の経験をふ



まえて苦労していることやこれから社会に出る学生に向けてのメッセージを送っていた。女性に限ったことではないが、やはり仕事と子育ての両立は困難を伴うのは事実であり、とくに臨床研究者であると、研究の時間が確保しにくいことがあったようである。時間のあるうちに実験や論文投稿などを進めていくことも大切だと話された。

2. 特別講演：平井みどり先生「健康長寿社会のために薬剤師ができること～ワークライフバランスを考えた健康サポート～」

講師は薬剤師であり医師でもある。薬学部卒業後医学部に入学、学位取得後に大学病院薬剤部に研究職として職を得て、様々な臨床、研究、学会、教育活動に従事されてきた。

<女性として>

女性の活躍、ダイバーシティという観点からお話しいただいた。

まず前提として、ダイバーシティとは多様性を認めることで、男女共同参画と同義語ではない。超高齢社会を迎え、多様な価値観に対応していくことが医療でも求められている。男女に差異があるのは当然であり、その差異を活用して多様性に合せていくことが重要で

ある、と言われた。

女性のドクターは増えてきている。医療職は女性に向いているのではないかと思う。薬剤師は全体の3分の2程度は女性である。女性が多い理由は、国家資格職であり昇進・昇給に男女差はほとんどないこと、また、ライフスタイルに合わせて再就職が比較的容易だというメリットがあること、などが考えられる。

<研究者として>

講師が所属する日本学術会議においても、会員・連携会員に占める女性研究者の割合も増やそうとしている。

研究者の心構えとして、研究とは、これまでの価値観を疑うことが必要であると言われた。例えば、人間は至上、人命は絶対という価値観は正しいのか。科学の方法がはたして正しいのかを含めいろいろ考えていくべき時期なのではと思う。

生涯研鑽が必要というお話もあった。自ら情報をつくり発表するということが、生涯研鑽のなかで最も重要なことだと思う。そのために研究をしている。ひいては患者や市民の役に立てるように頑張ることである。

<薬剤師として>

高齢社会と疾病構造の変化、治療に対する考え方の変化、治療の変遷など分かりやすくお話しいただいた。

現代はチームで生きていく時代であり、医療現場においても他職種連携が必要である。Respectには「おたがいさま」という意味合いもある。お互いさまと思うことがすなわち倫理だと哲学者は言っている。一人ですることには限界があるので、それを理解しながらお互いに尊重し合うことが重要である、と述べられた。

変化に関わらず必要な事は何かということを見極めるのが生涯研鑽だと言う。薬剤師になぜ生涯研鑽が必要か、それは一般市民としての感覚を忘れないため。患者や生活者がどうあってほしいかを常に考えなければならない。

<働き方について～女性と健康～>

研究者・薬剤師として健康増進につながる研究を推進することも重要だが、その一方で自分自身の健康に関心をもつことも重要である。ワークライフバランスをとることは健康から。医療従事者においてワークライフバランスはまだまだである。頭ばかりを使っていないで、自分の身体の声をきくことが大事である。身体感覚を取り戻そう。

誤解してはいけないこととして、「ワークライフバランス」とは「仕事もハッピー、家庭もハッピー」ではない、と述べられた。「ライフ」を充実させれば自動的に仕事の質が上がるわけではなく、努力が必要であることに気が付いていない人もいる。楽しんでどちらもハッピーにはなれないと認識する必要がある。

<まとめ>



大事なことは惜しまず共有し、他人に教育することがひいては自分自身のいちばんの学習になる。そのためにも講演会等を自分で企画しよう、また、生涯研鑽のひとつとして自ら情報を作り発表することが重要であり、公共に資するためにも学会に入会しよう、と若い人たちに向けてメッセージを送られた。また、変革は中心からではなく周辺から起こるものである、女性の方から変革をしていかなければいけない、世の中を変えていくのは女性の力である、とまとめられた。

研究者として、薬剤師として、医療向上のために尽くしてこられた講師のお話に、学生や若手研究者は感銘を受けたようである。自分の将来を考えるきっかけになりとても有意義な講演会であったと言える。